

夏期講座 ゴム技術の守りと展開！！

第55回夏期講座

6月29日・30日 タワーホール船堀

今あるゴム技術をいかに守り展開させるか

主 催：一般社団法人日本ゴム協会

協 賛：高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本化学会、日本機械学会、日本合成樹脂
(予定) 技術協会、日本材料学会、日本接着学会、日本トライボロジー学会、日本複合材料学会、日本
レオロジー学会、プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会 (順不同)

2020年7月の開催を延期させていただいておりました夏期講座の、新たな開催日が決定いたしました。自動車産業などでの技術革新、環境問題、IT技術の進歩により、ゴム業界を取り巻く環境が激しく変化しています。そのような中で、「今あるゴム技術をいかに守り展開させていくのか」について常に考えておく必要があります。本夏期講座では「ゴム技術の守りと展開」を主テーマに、「中堅・中小ゴム企業の取り組みと強み」に関する経営者による講演とパネルディスカッション、「ポジティブリスト制度」による今後のゴム業界への影響に関する講演と質疑応答、という2つの特別企画を設けました。また、参加者の皆様がゴムの開発・製造に必要な情報を得ながら、今あるゴム技術の守りと展開について考えることができるように、ゴム練り、成形加工、機能性ゴム、コンポジット、接合、シミュレーション、リサイクル、国際標準化、トラブル対策、自動車・生活関連分野での動向、など幅広い分野での講演を企画しました。

さらに29日(火)の夕方には、同会場にて講師の先生方を囲んでの交流会を行います。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

開催日：2021年6月29日(火)・30日(水)

会 場：講 座：タワーホール船堀 5階「小ホール」

交 流 会：タワーホール船堀 2階「瑞雲」

アクセス：東京都江戸川区船堀 4-1-1

※都営新宿線「船堀」駅より徒歩1分

<https://www.towerhall.jp/4access/access.html>

ZOOM ウェビナーによるオンラインとのハイブリッド形式で開催いたします(講座のみ)。

定 員：130名(タワーホール船堀)

定員になり次第締め切り、オンラインによるご参加をご案内させていただきます。予めご了承ください。

受講料：6月4日(金)まで 会員 29,700円、会員外 46,200円、学生会員 5,500円
シニア 14,850円(60歳以上の正会員)

6月5日(土)以降 会員 35,200円、会員外 51,700円、学生会員 5,500円
シニア 17,600円(60歳以上の正会員)

※賛助会員は1口2名様まで会員扱いでご受講いただけます。

※受講料は会場/オンライン共通、消費税とテキスト代を含みます。

交流会参加費：6,000円(税込)

申込要領：弊会ホームページ(<https://www.srij.or.jp/>)よりお申込みください。

お申込み時に会場/オンラインいずれかのご参加方法をお選びください。

<会場参加の方>受講票を発行・送付いたします。当日会場へお持ちください。当日テキストをお渡しいたいです。

<オンライン参加の方>6月22日(火)以降に参加用URLをお送りいたします。テキストは開催までにお送りいたします。

送金方法：銀行振込(三井住友銀行日比谷支店(普通) No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会)。

開催日前日までにご送金くださいますようお願いいたします(送金手数料は受講者側でご負担ください)。一度ご入金された受講料等は原則、返金いたしかねますので予めご了承ください。

お問合せ先：一般社団法人日本ゴム協会 第55回夏期講座係

TEL：03-3401-2957/E-mail：office@srij.or.jp

【6月29日（火）】

- 10：15～10：20 開講のあいさつ 一般社団法人日本ゴム協会会長
- 10：20～11：20 「ゴムの成形加工におけるトラブル事例と対策」
 (一財) 化学物質評価研究機構 近藤 寛朗 氏
 成形加工工程（混合、押出、圧延、加硫）におけるトラブル原因その対策について解説する。特に成形加工時における水分の影響や劣化現象についてデータを示しながら述べる。
- 11：30～12：30 「ゴムとセルロースナノファイバーとのコンポジット材料」
 (国研) 産業技術総合研究所 長谷 朝博 氏
 ゴムとセルロースナノファイバーとの複合化手法、コンポジットの物性への繊維形状の影響等について概説し、スポンジゴムへの応用例を紹介する。
- 13：40～14：40 「Tier1 メーカーからみたゴム・プラスチック材料への期待」
 (株)デンソー 後藤 伸哉 氏
 自動車業界は「100年に一度の大変革の時代」に入っている。CASEや環境対応を踏まえ、今後の自動車部品に求められる材料開発の方向性について述べる。
- 14：50～15：30 (特別企画1) 「ゴムのポジティブリスト」 長岡技術科学大学 河原 成元 氏
 2021年6月1日に施行された食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度に基づくゴムのポジティブリスト作成の進捗状況を報告する。
- 15：40～17：20 (特別企画2) 「中堅・中小ゴム企業の取り組みと強み」
 ～講演とパネルディスカッション(講師・パネラーは次号より掲載予定)
- 17：40～19：40 交流会



【6月30日（水）】

- 9：30～10：30 「異種材料接合技術（NMT・NAT）と国際標準化取得事例」
 大成プラズ(株) 板橋 雅巳 氏
 ポストコロナの経済立て直しの中で、脱炭素化社会の実現に向けた政策決定がなされている。Co2総排出量の18.5%（国内）を占める運輸部門の排出量削減に向け、EV化含め車両の軽量化は重要である。その軽量化を実現するための異種材料の接合技術例を報告する。
- 10：40～11：40 「ポリウレタンのゴムの性質と多様性」 積水化学工業(株) 村山 智 氏
 多様性が高いポリウレタンの中でも、ゴムはその物性を象徴する応用分野である。本講演では、ポリウレタンの応用展開へのヒントとすべく、そのゴムの性質を概説する。
- 12：50～13：50 「分子シミュレーションを利用したゴムコンポジット材料の物性設計」
 防衛大学校 萩田 克美 氏
 ゴムコンポジット材料の物性の分子レベル設計を目指すシミュレーション解析技術について、基礎的な事項から最新の研究について紹介する。また、電子顕微鏡で3次元観察したフィラー凝集体の分析や、分子シミュレーションの連携も紹介する。
- 14：00～15：00 「ゴム練りの最適化と今後の展開」
 ゼオンポリミクス(株) 田村 輝雄 氏・日本ゼオン(株) 江守 宣佳 氏
 ゴム製品の一般性能を決める要素には、配合技術と混練技術がある。本講座では、混練技術におけるゴム練りの最適化と今後の展開について概説する。
- 15：10～16：10 「タイヤリサイクル技術の現状と課題」 (株)ブリヂストン アショカ カルモカル 氏
 使用済みタイヤの処理・リサイクルに関する世の中で取り込んでいる主な技術紹介とともに、近年取り組んでいるサーキュラーエコノミーにおける課題について解説する。
- 16：10～ 閉講のあいさつ 第55回夏期講座運営委員会委員長

※プログラムは一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。

お申込みはホームページ (<https://www.srij.or.jp>) からお願いいたします。